

宣教支援センター

全国支援・地域協働プロジェクト
バプテスト北九州地方連合
宣教支援センター
ニュースレター◆ 第5号

いよいよ開所式を迎えます

北九州地方連合副会長

山崎克明(富野)



思えば長い道のりでした。わたしたちバプテスト北九州地方連合にとって、そもそも「地域協働」とは何かの議論から始めて、「宣教支援センター」構想へ。そして、地方連合総会決議から連盟総会での提案・決議へ。その間、何度も宣教会議・宣教フォーラムなどで議論し、ようやく「構想」から「実施計画」、そしてその実現に向けての取り組みへと、歩んできました。

それぞれの教会での「構想」の理解には、当初はかなりの温度差があり、教会内でもなかなか足並みがそろわない状況もありました。けれども、祈りを重ね、周到的準備を重ね、時間が経過するとともに、次第に関心が高まり、理解が深まり、教会員の胸の内に浸透して行きました。

そして、ついに5月より、齊藤弘司主事を迎えて支援センターの準備活動が、精力的に始まりました。主事の訪問と話し合いの場を持たれた教会は、それぞれに「橋渡し」の役割を担う宣教支援センターの、更に具体的なイメージをお持ちになったことと思います。そして、新たな「教会づくり」と「支援センターづくり」にどう取り組んでいこうかと、議論を進めている教会もあろうかと思えます。

「成長させてくださるのは神」であり、「わたしたちは神のために働く者」(1コリント3:9)であることを覚え、すべての教会が手を携えて、祈りを合わせ、助けあい励ましあって、北九州地域における「キリストの体」の形成にかかわらせていただける神の恵みに感謝しつつ、9月20日の宣教支援センター開所式を迎えたいと思います。

◇教会訪問記◇

⑮ 飯塚教会・・7月27日(月)



飯塚教会では2009年8月に、それまでの会堂の隣に、新会堂を増築しました。2011年には教会全体で何度も話し合い、寺園喜基先生の助言を受けながら、教会の新しい信仰告白をまとめました。2012年11月には、教会名を「飯塚バプテスト教会」に変更しました。これらの出来事の一つ一つが、祈りとみ言葉に依る出来事であることを、創立85周年記念誌「Trace」のなかでメンバーの皆さんが証しをしておられます。

飯塚は北九州方面よりも福岡市とのアクセスがよいことから、西南学院中高の生徒さんが続けて礼拝に集っているそうです。高屋澄夫牧師は、教会を訪れる生徒たちに、少しでも聖書に興味を持ってもらえるような教材選びを心掛けておられるとのこと。

教会では、子ども達も共に礼拝を守っています。小さなお子さんばかりで託児は大変とのことですが、子ども達の存在は教会の希望でもあります。将来、子育て中の親御さんたちが集えるような拠点を交通至便な場所に設けたい、という幻を夢見ながら、いま与えられている地で福音の種まきに励んでおられる飯塚教会。その働きは着実に未来へつながっていると信じます。

⑯ 八幡教会・・7月27日(月)



八幡教会の会堂はヴォーリズ設計事務所が1955年に手がけた建築です。礼拝堂が2階にあって、独特な造りになっています。今も建築を勉強している方が会堂を見学に来られることがあるとお聞きしました。

主日礼拝には西南女学院中高の生徒さんが10名、続けて出席しているそうです。礼拝が10時開始と早いことや交通の便がよいことなどから、学生の出席は例年多いのだそうです。

一時期は礼拝出席者が6名にまで少なくなったこともあったそうですが、今は学生を含めて30名が集っておられるそうです。久保田理牧師を中心に、教会の安定した歩みが守られていることを、メンバーの方々は率直に喜んでおられました。

八幡教会は、マンションの新築が続く八幡西区の中心部にあり、教会の向かいにはひびしんホールがあります。ホール前広場でも様々な催事が行われますが、主日礼拝と時間が重なったときは、しばしば音響面で苦慮されるそうです。都心部ならではの悩みとも言えますが、そうしたなかでこそ、毎週みことばが語られ主に立ち帰るときを守り続ける教会の使命というものが、一層際立つようにも思えました。

⑰ 芦屋教会・・7月29日(水)



芦屋教会は芦屋町の中心部に近い西浜町の高台に位置しています。広い敷地の中に、木造平屋建ての教会、牧師館、愛生幼稚園、そして共用の駐車場があります。

教会の歴史は戦後まもない1948年、西南学院大学神学部の河野貞幹先生を初代牧師として迎えることに始まります。教会の記念室には河野牧師の写真が大切に掲げられていました。

教会では2013年から直方教会との合同祈祷会を続けています。また高須教会との申し合わせで、無牧師期間の冠婚葬祭の働きについては三上渡牧師に委託されているそうです。

愛生幼稚園は、この4月に古賀昭代園長(高須教会員)が就任されました。教会では昨年、秋の幼稚園バザーに合わせて、教会バザーも同時開催するというのを試みました。初回にもかかわらず多くのお客様を迎えることができ、「今年も頑張ります！」とはりきっておられました。

教会のメンバーの方々は「遠くて道も狭いところですが、連合の諸集会の場として、ぜひ芦屋教会を用いていただきたい。皆さんと交流を持ちたい」と話してくださいました。今、教会の一番の願いは牧師招聘とのこと。牧師館は玄界灘を臨み、夏の花火大会の折には二階の窓からよく見えるそうです。芦屋教会に一日も早く、ふさわしい牧師が立てられますように、祈りを合わせて参りたいと思います。

⑱ 小倉春ヶ丘教会・・8月5日(水)



小倉春ヶ丘教会の起源は、小倉教会とシオン山教会が合同で取り組んだ国立小倉病院での病院伝道にまで遡ります。1953年に小倉教会を母教会として伝道所が設立され、1955年に病院の敷地が一部分譲された際に土地を取得。そこに現会堂が建てられたとのこと。

金美蘭牧師は2009年の就任から今年で7年目を迎えられました。メンバーの高齢化に伴い、教会では壮年会、女性会の組織を改め、若い世代と求道者を中心としたオリーブ会と、シニア世代の男女を中心にしたシュロの会に再編したそうです。

第4主日は「賛美と証しの礼拝」と称して、求道者の方々に焦点を絞った礼拝プログラムを継続。現在、30代～40代の求道者の方々が教会につながり始めているとのこと。

金美蘭牧師は地域との交流にも心を配っておられます。昨年度まで2年間、自ら町内会の役員を引き受けられ、会議の場として会堂を提供されるなどの協力をして来られました。周囲に住宅が多く、最寄りの城野駅北口の再開発では、広大な土地にエコタウンが造成される予定。宣教の地として、新たな希望と可能性を見出すことができそうです。集われるメンバーお一人お一人の思いが一致して、時にかなったビジョンが与えられますように。小倉春ヶ丘教会を覚えて祈りましょう。

⑱ 中間教会・・8月10日(月)



中間教会は JR 福北ゆたか線中間駅から徒歩7分ほどのところにあります。訪問した日は猛暑日でしたが、木立に囲まれた高台にあるせいか、扇風機だけで十分にしのぐことができました。

中間教会は中間市内で唯一のプロテスタント教会です。他教派が何度か開拓伝道にチャレンジしながらも、実らなかったのだそうです。この地に種を蒔いたのは北九州市の生みの親である吉田敬太郎牧師(若松)を中心とした遠賀川流域伝道の働きです。

安部寅彦牧師は、「西南神学部の卒業に当たり、バプテスマを受けた坂本國生牧師から『終生やりなさい』と励まされ、また木村文太郎先生からは『忍耐です、忍耐です』と教えられ、以来ここまで頑張ってきました」と感慨深くお話してくださいました。13年前に大病をされておつらい日々を経験されましたが、今も神様から、講壇でメッセージを取り次ぐことが許されており、そのことには本当に感謝していらっしゃるとのこと。既に遠方に引っ越された複数の方々が変わらず献金を捧げておられたり、ロゴス腹話術の会場として長年用いられていたり、安部牧師のお話を通して、教会を愛し支え続ける方々の存在の尊さを思いました。連合のつながりの中で、中間教会に新たな交わりが起こされることを切に祈ります。

～教会訪問記 次号も続きます～

■編集後記

8月21日(金)～22日(土)まで東京で開催された全国壮年大会。北九州連合から私を含む9名の壮年が参加しました。連合壮年会長の梅木芳昭兄を中心に今回の「全国壮年大会 in 北九州」についてアピールし、多くの反響をいただきました。

閉会礼拝では加藤誠牧師(大井)より「互いに足を洗い合う相互性に生きることが、教会を元気にしていくのだ」というメッセージ。宣教支援センター本格スタートに当たり、力強いエールを送られた思いです。

9月26日(土)13時よりシオン山教会で「全国壮年大会 in 北九州」の決起集会が行われます。心をひとつに盛り上げていきましょう。

(齊藤弘司)



■教会訪問について

山田運営委員長と齊藤主事の二人三脚で行われた教会訪問。お陰様で一巡することができました。貴重な時間を割いてお迎えくださり、ありがとうございました。

10月以降は、齊藤主事が各教会の主日礼拝に出席させていただく予定であります。教会訪問ではお会いできなかった方々との出会いを楽しみにしておりますので、宜しく願い申し上げます。

発行日	2015年9月17日
発行責任者	山田 雄次
発行所	
〒805-0015	
北九州市八幡東区荒生田 2-1-40	
東八幡キリスト教会内	
連合宣教支援センター事務局	
TEL&FAX (093)651-6669	